

プレスキット

モビリティを形づくる革命の中心となるヴァレオのイノベーションを中国で展示

2019 上海国際オートショー



プレスキット

目次

プレスキット	1
ヴァレオ、2019 上海国際オートショーに出展.....	3
車の電動化革命への道を切り開く中国とヴァレオ	4
ヴァレオの 48V モーターを搭載した都市型フル EV の試作車.....	4
ヴァレオの 48V テクノロジーはあらゆる車に適合する電動化ソリューション.....	5
ヴァレオのリバーシブルチャージャーで、車は電力網の一部に.....	6
中国で生産する、中国の EV 向けコンフォート & サーマルマネジメントソリューション.....	8
あらゆる環境や気候に対応する EV 向けサーマルシステム	8
健康的な大気品質を、一年中いつも	9
自動運転の普及に貢献	11
ヴァレオはドライビングアシスタンスセンサーのグローバルリーダー.....	11
Valeo everView: 自動運転のためにセンサーの作動を常に維持	12
より良い視界の確保は今後の自動運転車に、そして今日の車にも大事な要素.....	13
中国における自動運転車開発の戦略的パートナーシップ	14
ヴァレオはモビリティの革命をけん引するサプライヤー.....	15
イノベーションはヴァレオの戦略の中心	15
中国でのヴァレオ	16
2018 年の主な数字	16

ヴァレオ、2019 上海国際オートショーに出展

第 18 回となる上海国際オートショーは“Create a better life”のテーマのもと、2019 年 4 月 18 日から 25 日に一般公開されます。主催者発表によれば、上海国家展示・コンベンションセンター (NECC) の計 12 棟のホールで、車の電動化、自動運転、コネクテッドカー、そして自動車産業向けの AI(人工知能)に関する数多くのイノベーションが出展されます。

こうしたイノベーションはまさに、ヴァレオが設計・生産する最先端の製品にも符合します。それこそが、ヴァレオがモビリティを形づくる革命の中心となるイノベーションの数々を今年の上海で発表する理由です。これらのテクノロジーで、私たちの生活のあり方、移動の方法、そして生活する場所の選び方が変貌しつつあります。今日の自動車産業を形づくるこれら 3 つの革命は、社会トレンドをも形づくりつつあるのです。

車の電動システムはメカニカルなシステムにとって不可欠な存在となり、都市の電力ネットワークとさえも相互に繋がるようになります。上海オートショーでヴァレオは、EV がどのようにして都市の電力網の一部となり得るかを示すデモンストレーションを実施します。CO₂ 排出量削減における世界的なリーダーとして、ヴァレオは車のエネルギー消費量の抑制につながる革新的な 48V 電動システムの開発に取り組んでいます。こうしたソリューションは、その適正な搭載コストで、よりクリーンなモビリティを実現するハイブリッドや EV の広範な普及に貢献します。

上海で、ヴァレオは EV 向けの最新鋭のオールシーズン・全天候型コンフォート & サーマルコントロールソリューションも発表し、車の電動化革命がパワートレインにとどまらないことを提示します。

自動運転の分野において、ヴァレオは自社の先進テクノロジーをさらに普及させるという目標を追求しています。ヴァレオは、自動運転車の目や耳として機能する超音波センサーやカメラ、レーダー、LiDAR に至るまで、自動車産業随一のセンサー製品群を展開しています。これらのセンサー類をあらゆる天候と路面状態において確実に作動させるためのクリーニングシステムについても、ヴァレオは独自の専門性を有しています。

デジタルツールが私たちの行動様式を変え、新たなモビリティ形態への扉が開こうとしている今、ヴァレオはインテリジェントモビリティの高度化を後押しするテクノロジーの開発を進めています。その一つは車室内の空気質の動的な監視です。ヴァレオは上海で、大気汚染レベルを計測し、車室内での予防的なアクションを取り、メンテナンス時期の予測も可能にするデジタルサービスを発表します。

イノベーションはヴァレオの戦略の中核であり、2018 年には、OEM 向け売上高の 13%に相当する 20 億ユーロを超える額を研究開発に投資しました。ヴァレオの革新的なソリューションはこれからのモビリティ形成に明確な示唆を与え、広範に普及する可能性と個別ニーズへの密接な対応を兼ね備えた EV や自動運転車、コネクテッドカーの開発に貢献しています。このことは世界最大の自動車生産国である中国においてとりわけ明らかです。2018 年、全世界の自動車総生産台数の 3 分の 1 にあたる 2,800 万台が中国で生産されました。この点を考慮すれば、2019 上海オートショーは重要なイベントです。ヴァレオが上海に出展するイノベーションの数々は、当初こそ地域的な課題への対応を意図して設計されましたが、中国市場という枠を大きく超え、都市化の進行によってクリーンなモビリティへの要請が高まりつつあるどの地域においても、急速に妥当性を帯びてきています。

車の電動化革命への道を切り開く中国とヴァレオ

ヴァレオは車の電動化における世界ナンバーワンであり、その電気システムは世界中の車の 3 台中 1 台に搭載されています。あらゆる車両セグメント、あらゆるユーザー向けに、都市部を走行する小型車からプレミアムセダン、SUV に至るまで幅広く対応するテクノロジーを開発しています。ヴァレオの先進的なシステムは、低電圧ソリューションから、合併会社 Valeo-Siemens eAutomotive が生産する 347kW(470 馬力超)を発生する高出力モーター(次ページ「ご存知ですか？」を参照)までカバーしています。

ヴァレオは、現在すでに全世界で数百万台の車に搭載されているストップ・スタートシステムも考案しました。ヴァレオは、マイクロハイブリッド分野では 12V ユニットの年間 2,500 万台供給し、マイルドハイブリッド分野では 48V システムを供給して、両分野をリードしています。

ご存知ですか？

中国は EV のグローバルリーダー

中国は車の電動化に向けた積極的な方針を推進しています。手始めに、補助金制度によって、道路を走行する EV とハイブリッド車の台数を急増させ、2018 年の販売台数を 62%押し上げました。2018 年に全世界で販売された EV のうち、過半数は中国国内で、その数は実に約 100 万台にのぼります。中国は、2025 年までに国内販売の 5 台に一台を EV とすることを目指しています。

国内ではすでに 26 万 6,000 箇所の充電ステーションを擁する巨大なネットワークが整備され、その数はアメリカとヨーロッパでのステーション数の 43%を超え¹、全世界の EV 市場においては 47%を占めるに至っています。

ヴァレオの 48V モーターを搭載した都市型フル EV の試作車

ヴァレオは上海オートショーに低電圧 (48V)フル EV の試作車を展示します。あらゆる国々や主要都市が以前にも増して厳しい CO₂ 排出量の規制を導入する中、ヴァレオは都市部のモビリティの未来に新たな切り口を提供します。

試作車は完全に稼働可能な 2 人乗りの EV で、その最高速度は 100km/h、航続距離は 150km に達し、あらゆる電源コンセントから充電することができます。この先進的なデモカーは、都市部での短距離で低速な運転に最適なサイズとしています。

さらに、この 48V フル EV 試作車は、高電圧フル EV ソリューションで必要とされる幾つかの部品とシステムが不要になることから、より高い経済性(20%安価)を実現することができます。

¹ 出典: マッキンゼー [全世界におけるモビリティ革命の現況、EV と自動運転車における中国の要因](#)

ヴァレオの 48V テクノロジーはあらゆる車に適合する電動化ソリューション

ヴァレオは、自社の 48V テクノロジーの対象を以下のように多種多様な車両へと広げてきました：

- フル電動の 6 人乗りロボタクシー
- 125cc 相当の電動スクーター
- 燃費と CO₂ 排出量を 5~10%削減を実現するハイブリッド配送トラック
- ファミリーサイズのプラグインハイブリッドカー。ヴァレオは電動パワートレインからモーター、車載チャージャー、コンバーターに至るシステム全体を提供。48V システムにより、従来の高電圧テクノロジー比で約 40%の燃費節減を実現。この車は、フル電動モードでは都市部を最大 70km/h で 40km 走行可能、より長距離を走る場合や高速道路を走行する際には内燃式エンジンへの切り替えが可能と、それぞれの状況で最適な性能を発揮。

ヴァレオの 48V ハイブリッドシステムは制動時と減速時にエネルギーを回収し、駆動力として利用します。

この点は自動車メーカー各社、そして何よりもあらゆる車のユーザーに、大きな恩恵をもたらします。車両側の変更に多額のコストを要さず、燃費と CO₂ 排出量を 10%前後²削減することができます。これは今日において、自動車メーカー各社が既存車種に効率的なハイブリッド機能を付加するための最も経済性に優れた方法です。

ご存知ですか？

中国では 2023 年までに、400~500 万台にヴァレオの 48V システムが搭載されます。

ヴァレオは、2016 年に設立したシーメンスとの合弁会社を通じて、高出力セグメントにおいても世界的なマーケットリーダーとなりました。この合弁会社は創業後最初の数ヶ月で 100 億ユーロを超えると大きな受注を獲得しました。その 50% は中国からの受注でした。

ヴァレオの48Vテクノロジー

48Vテクノロジーとは	革新的で廉価なエンジン	都市向けEVへの理想的なソリューション
<p>低電圧の電動推進</p> <p>48V</p> <p>車載充電器 パワーコンバーター 電動モーター</p> <p>車両の充電と運転への完全なソリューション</p> <p>すでに量産されている ALREADY 技術</p>	<p>高電圧システムよりシンプル</p> <p>20%より廉価に生産・搭載</p> <p>あらゆるタイプの車両に搭載可能</p>	<p>市街地での利用に最適な性能</p> <p>あらゆるタイプの充電ステーションに対応</p> <p>ゼロエミッションでの電動ドライブ</p>

SMART TECHNOLOGY FOR SMARTER CARS



² ヴァレオのシミュレーションに基づく平均値

ヴァレオのリバーシブルチャージャーで、車は電力網の一部に

EV は通常、充電ステーションに接続されると、バッテリーに充電するための電気をそこから引き出そうとします。

しかし、ヴァレオは今年のオート上海で、EV と電力網(グリッド)のコネクションにおける新たなアプローチを披露します。ヴァレオのリバーシブルチャージャーを使えば、車のバッテリーを充電だけでなく、車対電力網(V2G) テクノロジーを使って車から既存の電力網へ、あるいは車対ロード (V2L) テクノロジーを使って車から特定の電気製品へと、電気を供給することができます。

これらの能力を説明するため、リバーシブルチャージャーを搭載した EV 試作車をヴァレオブースに展示します:

- 中国企業 Xcharge 社と共同開発した充電ステーションに接続し、バッテリー内の電気がどのように電力網へと再注入されるかを説明。
- ヴァレオブースの電気ポットとティーバーに接続し、リバーシブルチャージャーがどのようにして車のバッテリーの電気で電気製品を稼働させるかを紹介。

これは電気、とりわけ太陽光パネルや風力発電といった環境負荷の少ないシステムが作り出す電気を溜めておくためのテクノロジーに関する、大きな一歩になります。中国で利用が増えているこれらの再生可能エネルギーは不安定で、ある時は供給過剰、またある時は供給不足となるため、これは重要なテクノロジーです。現時点では、使われない分の電気を溜めておくためのソリューションは存在しません。そのため EV は、電力網を構成する一部として、電力マネジメントにおける極めて重要な役割を担うようになるでしょう。

ヴァレオの独創的なリバーシブル充電システムで、余剰な電気を EV のバッテリーに蓄え、必要時にはそれを電力網へと戻すことが可能になります。

ですから、革新的な V2G テクノロジーによって、以下のことができるようになるでしょう。

- すでに車に搭載されたバッテリーを活用し、CO₂ の排出や追加的な投資を伴うことなく蓄電の問題を解消して、再生可能エネルギーの普及に貢献
- V2G 機能を活用して、エネルギー事業会社を支援し、電力需要のピーク分散と地域単位での管理を可能に
- 自動車メーカー各社や充電ステーション運営会社が、EV 関連分野に変革をもたらす新たな特徴やサービスの創出が可能に

EV1,600 万台の販売を目標に掲げる中国は、2030 年には全世界の EV の 60%を占める可能性があります。その時点で、中国国内では 4,000 万台を超える EV が走るようになります。その全てが今回の機能(一台あたり 3kW)を搭載していれば、全体として供給できる能力は 120GW(ギガワット)に達します(次ページ「ご存知ですか?」を参照)。

ご存知ですか？

電力消費量は、多くの人々がほぼ一斉に帰宅する業務終了時刻付近にピークを迎える傾向があり、世界中どこでも同様の現象が起きています。冬季はこの傾向がさらに顕著で、暖房や照明、家電機器が一斉に稼働し始める一方、太陽光頼みの電力供給量は落ち込んでしまいます。EV は、日中にバッテリーに蓄えたエネルギーを電力網へと注入することで、貢献することができるのです。



Copyright. All rights reserved.

ご存知ですか？

ギガワット級の電力を生み出す V2G は、まるでバック・トゥ・ザ・フューチャー Part II のよう？

“何だって？ギガワットって何だ？”1989年に公開されたロバート・ゼメキス監督による映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の続編で、恐怖におののくマーティ・マクフライ(マイケル・J・フォックス)がエメット・ブラウン“博士”(クリストファー・ロイド)に尋ねた台詞です。1.21GWの電力を得た車デロリアンが時空を旅するという設定でした。

彼の問いに答えるなら、電力消費量としてのギガワットは以下に相当します：

テレビを 400 万時間視聴；

100 万台の冷蔵庫が 24 時間稼働；

洗濯機を 100 万回稼働；

あるいは、一台で 331kW の出力を誇る風力発電施設 333 基に相当、または 8 代目ポルシェ 911 カレラ S の 3,021 台分のパワー、とも言えます。

つまり、もし中国国内を走る全ての EV が 2030 年に V2G 機能を備えたなら、中国の電力網はそれら全てに 120 を掛け合わせた恩恵を受けることになります。つまり 120GW です！

中国で創る中国向け EV コンフォート & サーマルマネジメントソリューション

ヴァレオは 2019 上海オートショーに、EV 向けの最新鋭のオールシーズン・全天候型コンフォート & サーマルコンフォートソリューションを出展します。EV の革命はパワートレインにとどまりません。バッテリーが車の動力源として使用される際、その動作温度は航続距離と寿命を最適化する上で常に大事な要素です。そして、車室内の快適性はユーザー満足度のカギを握っています。

上海のヴァレオブースに出展されるサーマル & コンフォートデモ機では数々のソリューションを紹介します。その革新的なバッテリー冷却システム、ヒートポンプシステム、そして車室内空気品質ソリューションは全て、中国国内のヴァレオの拠点で設計・開発・生産されています。

あらゆる環境や気候に対応する EV 向けサーマルシステム

寒いとき、あなたは内燃式エンジンを搭載していない車のキャビン内をどうやって暖めますか？また、外が暑いとき、どうやって航続距離を犠牲にすることなく車室内を涼しくしますか？たとえ過酷な天候下にあっても、快適さとともに十分な航続距離を享受できるようにするには、克服すべきさまざまな課題があります。中国の気候の変化（冬季は 16°C からマイナス 28°C）³を考慮すると、多様な使用形態と季節の変化に対応しつつ、性能、航続距離、快適性を確保することのできる EV 向けサーマルシステムが必要です。

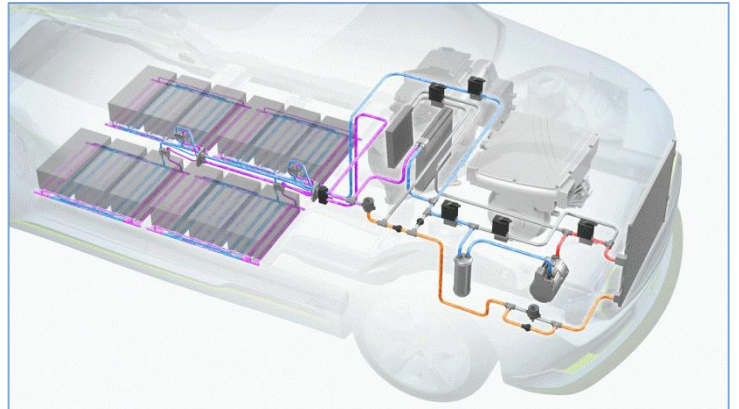
ヴァレオのデモカーは、まさにこれらのシステムを備えています：

- 冷媒を使用し、利用可能な空気のエネルギーを効率的に車室内の暖房、冷房、デミストへと変換する、EV の航続距離への影響を最小限に抑えた革新的なヒートポンプ構造。完璧な最適化によって、EV の航続距離を冬季で最大 30%、夏季では最大 20%、それぞれ改善することが可能。ヴァレオのヒートポンプによって、ユーザーは空調か航続距離かの択一ではなく、両方とも享受することができる。



³ 出典: ヴァレオ THS 中国

- バッテリーセル間の温度を一定に保つためのバッテリー冷却システムとチラー。これらのシステムは、EV の価値の半分近くを占める高電圧のバッテリーを保護し、性能を最大限に引き出す。



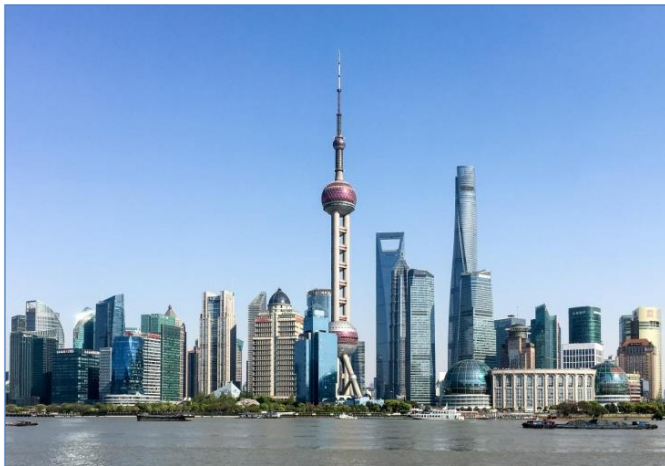
ヴァレオは、中国の EV プラットフォームに供給するヨーロッパの主要 OEM 企業向けにフルヒートポンプシステムを開発しています。仏山、長春、荊州にあるヴァレオの工場に 2019 年に生産を開始する予定です。

ご存知ですか？

10°Cは重要な境界値...

バッテリーは気温の変化に、とりわけ充電時には敏感です。バッテリーの寿命と性能を最適に保つため、その温度は 15°C から 35°C に、またセル間も一定温度内に保つ必要があります。指定温度をわずか 10°C 上回るだけで、その寿命は半減してしまうのです。

健康的な大気品質を、一年中いつも



中国では車の電動化の動きが着々と進んでいますが、まだ当面の間は、都市部や工業地域で運転する際には大気汚染のひどいエリアを通ることがしばしばあるでしょう。近年は中国の主要都市で行われた対策が奏功し劇的に改善してはいるものの、大気品質は依然として人々の大きな関心事であり、車で移動する際には積極的に自らを汚染から守ろうとしています。

ヴァレオのデモカーには、汚染物質の検出し中和するための数々のソリューションが組み合わされています。そのテクノロジーは以下の通りです：

- 濾過工程の基礎となる超高効率の車室内フィルター。ヴァレオのデモカーには、微粒子を 98% 除去し有害ガスをほぼ 100% 吸収して究極的な保護を実現する PM2.5・VOC (揮発性有機化合物) フィルターを搭載。このフィルターは荊州にあるヴァレオの事業所で生産されている。

- 車室内外に存在する超微粒子のレベルを検出する汚染センサー。PM2.5 センサーは粒子濃度が高すぎる状態になると自動的に内気循環モードを起動。さらにヴァレオは車室内空気清浄システムの提供も可能。
- 車室内の空気を清浄するマイナスイオンや香りで雰囲気を出すフレグランスを放つイオナイザー。

ヴァレオは動的汚染マッピングに関するその専門性を生かし、ユーザーが汚染レベルを監視して車室内で予防的な対策を取りつつ、必要なメンテナンス行動を予測することを可能にする、さまざまなデジタルサービスの開発を進めています。



最近の市場調査の結果、中国で大気品質に関する消費者の不安が高まっていることが判明しました。中国の回答者の 42%は、居住する都市の大気品質は良くないと感じています。同じく 65%は、汚染に対応するために車室内で個別に対策をしていると答え、2016 年当時の 40%から急増しています。

ご存じですか？

北京の大気汚染は 2013 年比で 25~83%低減(汚染物質により変動あり)しました。石炭燃焼ボイラーの制限、よりクリーンな家庭用燃料の導入、産業面の再構築が行われました。しかし PM2.5 の汚染濃度は、依然として WHO の推奨値を上回っている状況です¹。

¹<https://www.unenvironment.org/news-and-stories/press-release/beijing-air-improvements-provide-model-other-cities>

ヴァレオも、2018 年に Ipsos と共同で行った消費者調査で、同様の不安があることを把握していました。中国の回答者らが挙げた空気品質問題のトップ 4 は、車の樹脂部品が発するホルムアルデヒド、汚れたままのカーアクセサリーに付着したバクテリア、微粒子、そして不快な臭いでした。

自動運転の普及に貢献

中国は、自動運転およびコネクテッドカーについても、国家としての野心的なロードマップを発表しています。国家発展改革委員会による予測では、2020年までにレベル2の準自動運転システムが新型車の半数に搭載される見通しだとされています。2030年には、新型車の10%にレベル4やレベル5のシステムが搭載されているかもしれません。

どのような一部自動運転車も完全自動運転車も、車の目や耳として機能し、車がその周囲の状況を分析する各種センサーを必要とします。

ヴァレオはドライビングアシスタンスセンサーのグローバルリーダー



駐車支援用の超音波センサーを1991年に初投入してこの分野に参入したヴァレオは、ドライビングアシスタンスセンサーの生産における世界的なリーダーです。現在ヴァレオは、超音波センサーからレーザー、カメラ、そして自動車業界初であり唯一量産している乗用車用LiDARレーザースキャナーのValeo SCALA®に至るまで、ドライビングアシスタンスセンサー製品群を最も幅広く市場展開しています。

ヴァレオは、センサーを全種類合わせてこれまでに約10億台生産し、今後4年間でさらに10億台の生産を見込んでいます。ヴァレオは自動運転車に搭載されるこれらのセンサーから得られるデータの統合についても、専門性を有しています。

ご存知ですか？

ヴァレオが2018年に獲得した受注のうち10億ユーロ分は、センサーやカメラ、画像処理システムなど、AI(人工知能)が関係する製品でした。AIにより、超音波センサーは検出した障害物を壁、人、車などと判別することが可能になります。

ヴァレオは、ロボタクシー向けに設計した製品でも10億ユーロの受注を獲得しました。

AIは自動運転車、そしてヴァレオのビジネスにとっても大事な構成要素となりつつあり、全世界で200人を超えるヴァレオのエンジニアがAIに取り組んでいます。

2018 年秋、ヴァレオはこの分野における独自の専門性を実証すべく、世界初のデモンストレーションを実施しました。搭載するセンサーを量産品に限定した自動運転車 Valeo Drive4U は、混み合う複雑な都市交通状況にあるパリの道路でのテストドライブを完遂しました。この成功は、ヴァレオが完全自動運転への歩みを進めていくための大事な節目となりました。

センサーが自動運転車に不可欠な役割を果たすと同時に、センサーを清浄に保つためのシステムも同じくらい重要になりつつあります。

Valeo everView: 自動運転のためにセンサーの作動を常に維持

自動運転車には自車の周囲の状況を解析するために多数のセンサーが搭載されています。それらセンサーはあらゆる天候下で確実に作動しなければならないため、いつもクリーンに保たれる必要があります。そのため、ヴァレオはあらゆるカメラや LiDAR に対応すべく、3 タイプの完全自動クリーニングシステムのラインアップを開発しました：

- カメラ用クリーニングシステム： 数種類のノズルを通常は小型の格納式アームと組み合わせて搭載し、外部レンズに適量の洗浄液を噴射します。乾燥システムと組み合わせることもでき、冬季の性能を最大化するための解氷機能も提供可能です。
- Valeo everView Centricam： カメラの視界を常にクリアに保つ、ヴァレオの最新イノベーションです。雨滴や泥汚れ、埃などを遠心分離によって除去します。
- LiDAR everView： LiDAR センサー向けのクリーニングテクノロジーとして、競合他社製の手動システムでは 100ml だった洗浄液の消費量を僅か 25ml に抑えた LiDAR everView も開発しました。2020 年からドイツの主要ブランドの車に搭載される予定です。



ご存知ですか？

自動運転は安全性に関する世界共通の課題

2018 年末、WHO(世界保健機関)は、現在年間で 135 万人発生しているとされる交通事故による死者数が増加傾向にあるとする報告書を発表しました。交通事故は現在、5 歳の子供から 29 歳の若年成人の主たる死亡原因です。WHO の事務局長 Tedros Adhanom Ghebreyesus 博士は次のようにコメントしています。“このような死は、モビリティが支払うべき代償として許容できません。何も行動を取らないことに言い訳は通用しません。この報告書は各国の政府機関とそのパートナーに対し、これまで以上に大胆な行動を取ることを求める訴えです...”

自動運転車の発展によって、事故の主因たるヒューマンエラーは減り、道路交通の安全性は高まるでしょう。

より良い視界の確保は今後の自動運転車に、そして今日の車にも大事な要素

ヴァレオは、2019 上海オートショーで Valeo PictureBeam Monolithic を出展します。この新たなシステムは他の道路ユーザーを幻惑させることなく高精細な光を放ちます。それだけでなく、路面に情報や画像を投影することができます。

このイノベーションは、アメリカで LED 生産のマーケットリーダーである CREE との連携で開発されました。CREE が LED Monolithic チップを開発し、ヴァレオはそのテクノロジーを自動車用ライティングへと統合しました。

Valeo PictureBeam Monolithic では、光線のピクセルがチップの光源から直接作り出されます。そのため、モジュールは市場に存在する他の HD ライティングシステムよりも小型軽量で、車への搭載も容易です。この新しいタイプの LED チップが数千ピクセルレベルの精細度を実現しています。ピクセルごとのオンオフの切り替えを意のままに調整することが可能で、ヴァレオが設計したエレクトロニクスシステムで完全にコントロールすることができます。

ヴァレオは、このソリューションによって交通の安全性を高めつつ、カスタマイズ性と快適性のための新たな機能を提供しようとしています。

中国における自動運転車開発の戦略的パートナーシップ

先進的なテクノロジーだけでなく、自動運転車の開発は旅客輸送や物品配送の分野におけるキープレイヤー各社とのパートナーシップによっても進められています。ヴァレオは中国で、Baidu(百度)や Meituan(美团)を含め数々のキープレイヤーと緊密に連携しています。

2018年、ヴァレオは、中国語での主要インターネット検索プロバイダーBaiduが設立したオープンな自動運転プラットフォームであるApolloとの戦略的協力を発表しました。このプラットフォームに対し、ヴァレオはセンサーとその関連情報に関する専門性で貢献します。

2019年1月、ヴァレオは、中国における主要なオンデマンド型の料理配達プラットフォームであるMeituanとの間で、小口自動配送サービスに関する戦略的協力の契約にも調印しました。

こうした一連のパートナーシップは、ヴァレオのオープンイノベーションへの取り組み、そして、今後も自動運転とコネクテッドモビリティの革命における中心であり続ける野心の現れです。

ヴァレオはモビリティの革命をけん引するサプライヤー

ヴァレオは世界中のあらゆる自動車メーカーのパートナーです。テクノロジーカンパニーとして、ヴァレオはCO₂ 排出量の削減、そして自動運転やコネクテッドカーの発展に貢献する革新的な製品やシステムを提案しています。ヴァレオが設計し生産するハイテク製品は、車の電動化、自動運転、そしてデジタルモビリティという、これまでの自動車産業を根底から覆すほどの3つの革命が交わる地点に存在しています。

世界中を走る車の3台に1台が、CO₂ 排出量の削減に貢献するヴァレオの電気システムを搭載しています。ヴァレオは直観的ドライビングの分野において、センサー製品を自動車市場で最も幅広く展開しています。Valeo SCALA®は、市場において現在量産されている唯一の自動車に特化したレーザースキャナーです。ヴァレオは世界初となる自動運転デモカーで、パリの環状道路を24時間走行し、ヨーロッパとアメリカ、日本で長距離にわたる走行を敢行しました。

ヴァレオは、スマートフォンから車の施錠・開錠や始動が可能で、高い安全性を持ちシェアも可能なバーチャルキーのValeo InBlue®など、ユーザーにとっての日々の利便性を高めるデジタルソリューションの開発にも力を注いでいます。

イノベーションはヴァレオの戦略の中心

2019年4月、ヴァレオは2018年にフランスのINPI(国立工業所有権研究所)へ出願した工業所有権の申請件数ランキングにおいて、3年連続で首位を獲得しました。2018年の申請出願は1,355件と、2017年の1,110件より増え、フランスで最も革新的な企業としての地位を確立しました。

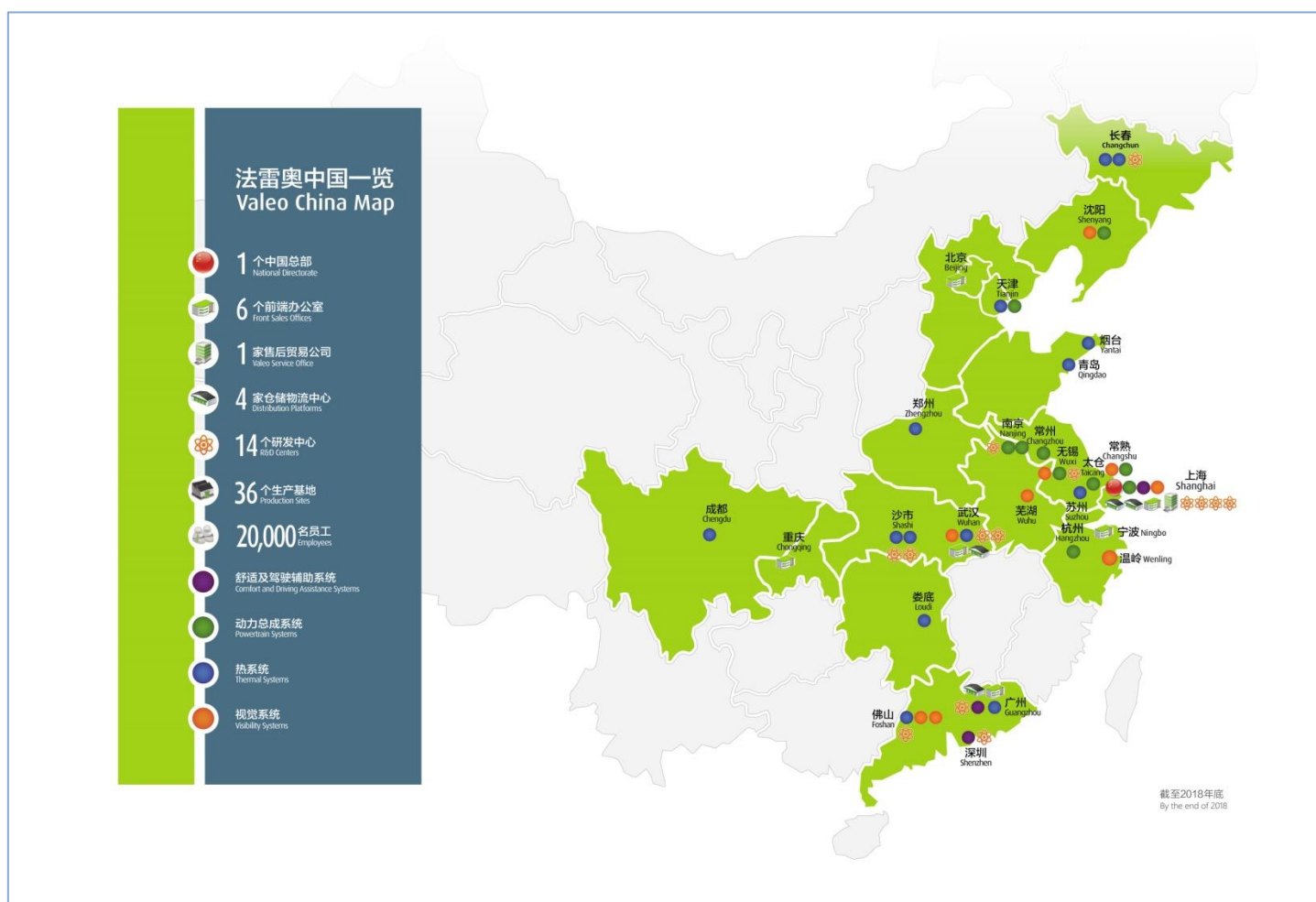
ヴァレオはEPO(欧州特許庁)へも2018年に784件の特許を申請(世界第18位)し、同様に3年連続でフランス企業として首位となりました。これら2つのランキングは、ヴァレオがその基礎、すなわちイノベーションを守るとのコミットメントを裏付けています。

イノベーションはヴァレオの戦略の中核です。2018年にはOEM向け売上高の13%に相当する20億ユーロを超える額を研究開発に投資しました。その3分の1は自動運転車関連テクノロジー、またテクノロジーの半分はCO₂ 排出量削減に関するものでした。ヴァレオは全世界59カ所に研究開発センターを構え、約11万3,000人の従業員のうち研究開発エンジニアは2万人を超えます。イノベーションはヴァレオの成長の推進力であり、2018年に獲得した総受注高の53%、Valeo Siemens eAutomotiveを含めるとその60%は、革新的な製品(この3年での新製品)が占めました。

ヴァレオは基礎研究、先進的エンジニアリングと新技術に特化した研究センターを21カ所、開発センターを38カ所構えています。社会のメガトレンドの調査・分析を通じて、ヴァレオは10年後を見据え、顧客各社とエンドユーザーの今後のニーズを予測するテクノロジーロードマップを策定しています。

ヴァレオはこれまで10年以上にわたり、大学や研究機関、リサーチセンター、スタートアップ企業など各産業分野における先駆者らとのパートナーシップによってイノベーションのエコシステムを構築してきました。多くの参加者が開発プログラムに加わることで、それぞれ知見を蓄積しつつ、コストや開発サイクル、市場投入までのリードタイムの抑制を実現しています。

中国でのヴァレオ



2018 年の主な数字

- ヴアレオの OEM 総売上高の 15%、受注高の 25%を中国が占める。
- 中国でのヴァレオの総売上高の 32%、中国での受注高の 44%を中国の自動車メーカーが占める。

チームおよび事業拠点

- 20,000 人の従業員 - ヴアレオが最も多くの従業員数を擁する国
- 36 カ所の工場
- 14 カ所の研究開発センター
- 4 カ所の物流拠点